

問1 山形県では、さくらんぼやりんご、ぶどうなどの果樹栽培において、単に市場へ出荷するだけでなく、消費者が直接現地を訪れて収穫を楽しむ形態が広く普及しています。年間の売上金額が6億円を超える規模に成長している、このような農業の形態を何と呼びますか。 (2025年 東京都公立入試 類似)

1. 観光農園 2. 促成栽培 3. 契約栽培 4. 施設園芸農業

問2 東北地方の秋田県で行われ、長い竿に多数の提灯を吊るして自在に操る伝統行事について、この提灯は何に見立てられており、どのような願いが込められていますか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 提灯を米俵に見立てて、稲の豊作を祈る 2. 提灯を魚の網に見立てて、大漁を祈る 3. 提灯を雨雲に見立てて、雨乞いを祈る 4. 提灯を魔除けの火に見立てて、無病息災を祈る

問3 岩手県から宮城県の沿岸部にかけて見られる、山地が沈み込んで形成された複雑に入り組んだ海岸線を何と呼びますか。また、その地形的特徴を活かして盛んに行われている産業の名称との組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2019年 高山県公立入試 類似)

1. リアス海岸 — 養殖業 2. 干拓地 — 稲作 3. 大陸棚 — 沖合漁業 4. 砂丘 — 果樹園

問4 青森県の産業構造について述べた文として、統計データの「第1次産業の就業者割合が13.2%」「漁業生産量が約17万トン」という数値の背景を最も適切に説明しているものはどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)

1. 冷涼な気候を活かしたリンゴ栽培などの果樹農業や、三方を海に囲まれた地理的条件を活かした水産業が地域経済の基盤となっている。 2. 広大な土地を活かした大規模な畑作や酪農が中心であり、漁業生産量よりも農業出荷額の規模が全国で圧倒的な首位にある。 3. 太平洋側に位置する工業地域の一部として、輸送用機械などの製造業が発達しており、第2次産業が就業人口の大部分を占めている。 4. 人口密度が非常に高く、県庁所在地へのサービス業や商業の集中が進んでいるため、第3次産業の割合が周辺の県に比べて突出している。

問5 山形県や福島県の内陸部に位置する盆地の農業について、地形の特色と結びつけた説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)

1. 山に囲まれた低地特有の水はけの良さを活かして、さくらんぼやももなどの栽培が盛んである 2. 広大な平坦な土地と豊かな水を活かして、日本有数の米の単作地帯となっている 3. 標高が高く夏でも涼しい気候を活かして、キャベツやレタスなどの高原野菜が栽培されている 4. 海岸沿いの平野部で、冬の温暖な気候を利用したビニールハウスによる促成栽培が行われている

問6 宮城県仙台市宮城野区における、1998年と2025年の状況を記録した資料を比較した際、この地域の土地利用の変化について説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2026年 群馬公立入試 類似)

1. かつて集落や田畑が広がっていた中野五丁目付近では、都市再開発や震災復興によって大規模な建物へと土地利用が変化した。 2. かつて大規模な建物が立ち並んでいた中野五丁目付近では、自然環境を保護するために広大な田畑へと土地利用が変化した。 3. 港二丁目付近では、1998年時点で存在していた工場が、2025年には神社を中心とした伝統的な集落へと変化した。 4. 仙台市宮城野区全体において、急速な過疎化の影響で住宅地が激減し、かつての森林や山林が復元される変化が見られた。

問7 1993年の夏季、青森県八戸市などの東北地方太平洋側では、7月および8月の月別日照時間が平年値を大きく下回り、月平均気温も平年より大幅に低い記録的な異常気象となりました。この気象条件が日本の農業に与えた影響について説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2021年 和歌山公立入試 類似)

1. 日照不足と低温によって稲の生育が著しく妨げられ、記録的な米の不作（冷害）となった。 2. 梅雨前線の活動が活発で降水量が平年を大きく上回ったため、大規模な洪水被害が発生した。 3. 台風の接近数が平年よりも多かったため、強風によって収穫直前の果実が落下する被害が出た。 4. 日照時間は短かったものの気温は平年より高かったため、病害虫が発生して野菜の価格が高騰した。

問8 日本海側を流れる河川の月別平均流量を調査したところ、九月から十月にかけて流量が増える河川がある一方で、別の河川では四月の流量が一千万立方メートルを超え、冬場と比較して突出して多いという特徴が見られました。この、四月に流量が最大となる理由として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2017年 兵庫県公立入試 類似)

1. 冬の間に降り積もった大量の雪が、春の気温上昇によって解けて河川に流れ込むため 2. シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が、四月の日本海側に大量の雨をもたらすため 3. 梅雨前線が北上し、東北地方の日本海側で長期間の激しい降雨が続く時期にあたるため 4. 春に発生する急速に発達した低気圧により、海から大量の海水が河川へ逆流するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 観光農園	生産者が収穫したものを出荷するだけでなく、消費者に収穫体験というサービスを提供することで、農産物に付加価値をつけています。山形県では、さくらんぼから始まり、ぶどう、りんご、なしと収穫時期の異なる複数の果物を組み合わせることで、長期間にわたって観光客を呼び込み、高い収益を上げる仕組みを構築しています。
問2	答え 1 提灯を米俵に見立てて、稲の豊作を祈る	秋田竿燈まつりは、竿燈全体を稲穂に、吊るされた個々の提灯を米俵に見立てることで、五穀豊穡（特に稲の豊作）を祈願する伝統行事です。東北地方を代表する夏祭りの一つとして知られており、秋田県の地理的・文化的特色を象徴しています。
問3	答え 1 リアス海岸 — 養殖業	三陸海岸の南部に見られるような、入り組んだ地形の海岸をリアス海岸と呼びます。湾内は周囲の山地によって外海からの強い波が遮られるため、一年を通じて波が穏やかであるという特徴があります。この環境を活かして、移動のできないいわかめ、カキ、ホタテなどの「育てる漁業」である養殖業が発展しました。
問4	答え 1 冷涼な気候を活かしたリンゴ栽培などの果樹農業や、三方を海に囲まれた地理的条件を活かした水産業が地域経済の基盤となっている。	青森県は三方を海（日本海、太平洋、津軽海峡）に囲まれており、暖流と寒流が交わる好漁場に近いことから漁業生産量が多くなっています。また、やませの影響を受ける冷涼な気候はリンゴ栽培に適しており、これらの第1次産業が盛んなことが、統計における就業者割合の高さに直結しています。静岡県のような工業出荷額の大きさや、北海道のような圧倒的な面積による生産規模とは異なる、東北地方特有の産業構造を理解することが重要です。
問5	答え 1 山に囲まれた低地特有の水はけの良さを活かして、さくらんぼやももなどの栽培が盛んである	山形盆地や福島盆地といった東北地方の盆地では、その地形的特徴から、さくらんぼ（山形県が生産量日本一）やももなどの果樹栽培が非常に盛んです。盆地の縁の部分には扇状地などの水はけの良い土地が広がっており、これが果樹栽培に適した条件となっています。選択肢にある米の単作は庄内平野などの平野部、高原野菜は奥羽山脈などの高地、促成栽培は高知県や宮崎県などの太平洋側の温暖な地域の特徴です。
問6	答え 1 かつて集落や田畑が広がっていた中野五丁目付近では、都市再開発や震災復興によって大規模な建物へと土地利用が変化しました。	複数の年次の地形図を比較すると、その地域の景観や土地の使われ方（土地利用）がどのように変容したかを読み取ることができます。仙台市宮城野区の事例では、1998年時点では農業や小規模な居住が中心であった場所が、2020年代には東日本大震災からの復興や都市再開発を経て、商業施設や物流拠点などの大規模な建物へと変化している様子が記録されています。選択肢にある「住宅地の激減」や「工場から伝統的集落への変化」は、実際の土地利用の変化の傾向とは異なります。
問7	答え 1 日照不足と低温によって稲の生育が著しく妨げられ、記録的な米の不作（冷害）となった。	1993年は「平成の米騒動」と呼ばれるほど深刻な冷害が発生した年です。統計資料によると、東北地方の太平洋側を中心に、夏場の日照時間が平年の半分程度まで落ち込み、気温も平年より2〜3度低い状態が続きました。これにより、主食である稲の開花や実りに必要な熱量・光が不足し、収穫量が激減しました。この不足分を補うために、タイなどから緊急で米を輸入する事態となりました。
問8	答え 1 冬の間に降り積もった大量の雪が、春の気温上昇によって解けて河川に流れ込むため	日本海側の地域は、冬の季節風の影響で世界有数の豪雪地帯となります。冬の間に山地などに降り積もった雪は、春の訪れとともに気温が上がると解け出し、河川へと流れ込みます。この「融雪」と呼ばれる現象により、日本海側の河川では四月頃の流量が一年の中で最も多くなるという特徴があります。これに対し、太平洋側の河川などは九月から十月の台風の影響で流量が増える傾向にあります。